

6 令和2年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例

- 【学校名】 佐世保市立広田小学校
【所在地】 佐世保市広田1丁目25番4号
【校長】 梶山 和彦
【学校規模】 33学級 児童数976名 (R2.5.1)
【学校教育目標】

主体的に考え 正しく判断して行動できる
心豊かでたくましい子どもの育成



(小学校校舎：1～5年)



(中学校6年生校舎)

1 委託期間 令和2年4月1日～令和3年3月31日

2 目的

(1) 小中一貫型教育の推進

広田小学校、広田中学校の小中一貫型教育4年目にあたり、昨年度の実践の成果と課題をもとに実践を行い、中学校教諭による乗り入れ授業や中学生との交流活動を重視し、円滑に中学校生活に移行することができる連携体制をつくる。

また、5年生保護者・地域への説明会を開催し実践内容を報告したり、学校だよりや小中連携だよりを定期的に発行したりして保護者や地域への周知を図る。

(2) 地域人材を生かした体験活動による、心豊かな児童の育成

950名を超える大規模校ではあるが、地域の「人・もの」に恵まれ、様々な体験活動を実施することができる。この地域教材を、生活科や総合的な学習の時間の学習に生かし、学年の発達段階に応じた体験活動と地域の方々との交流活動を仕組み、教科等の学習と関連付けながら総合的な学力を身に付けさせる。また、本校に定着している図書ボランティア「よむよむ」の活動を中学校舎の6年生にまで広げることにより、読書への興味・関心を高めるとともに豊かな感性をもった児童を育成する。

(3) 課題を明確にした学力向上の推進・新学習指導要領に即した授業実践

全国学力学習状況調査(6学年)、県・市の学力テスト(5・4学年)に加え、2・3学年も学力調査を実施する。結果を分析し、本校児童の課題を明確にし、校内研修を通じて指導法の研究を行ったり活用する力を育成したり、そのための基礎となる「基本的な学力」を定着させたりするため、課題に応じたプリント集等を整備する。さらに、校内研修において授業の中に以下の2点を盛り込み、「進んで考え、表現し、主体的に学びを深め合う児童の育成～数学的な表現を用いた学習を通して～」を目指した授業研究の実践に取り組む。

①毎時間の授業について「めあて」と「まとめ」を明確にした授業実践。

②自分の考えを数学的な表現(絵や図、表やグラフ等)を使って表す場の設定。

(4) 特別支援教育と防犯教育の充実を図る環境整備

特別支援教育において、特性に応じた知育玩具を教材・教具として整備することにより、自立活動の学習の時間や情緒の安定を図るための支援教材として活用する。また、災害や人的被害から身を守るための防犯教育の整備に努め、防犯意識の高揚を図る。

2 実践内容

(1) 小中一貫型教育の推進

【6年生が中学生と一緒に取り組んだ学校行事等】

※始業式・終業式は小学校で実施 ※前期始業式のあと 「出発式」(小学校舎) ○今年度はコロナ禍のため実施せず、見送のみ行った。 「歓迎式」(中学校舎) ※体育大会 ※文化発表会の合唱コンクールに参加 ※マラソン大会(距離を短くして6年生も参加) ※駅伝大会(6年選抜チームで参加)	期日	集会・行事等
	4月	6年生歓迎式、部活動紹介
	6月	いのちを見つめる日、6.29平和集会
	7月	前期前半終了 全校集会
	8月	8.9 平和集会
	9月	前期後半開始 全校集会、 <u>体育大会</u>
	10月	<u>文化発表会</u>
12月	<u>人権集会、マラソン・駅伝大会</u>	
		★前期始業式・終業式、後期始業式、卒業証書授与式は小学校校舎で実施

【乗り入れ授業・出前授業の実践】

- 乗り入れ授業：外国語・音楽・書写の3教科において、中学校教諭が専科を担当し授業を行う。
- 出前授業：総合的な学習や体育等の教科において、ITとして中学校教諭が適宜指導に入り、教科担任制のよさを生かし専門的な視点から指導の補助を行う。

【6年生と1～5年生との交流活動】

- 歓迎遠足：小学校で参加(今年度は4/22～5/15まで臨時休校のため実施できず)
- クラブ活動(年間7時間程度)は、小学校で実施。
- 縦割班活動：小学校で実施(年間3回程度)、他1～5年生との交流の場を工夫

【小中一貫型教育についての説明】

- 例年であれば、中学校舎の生活について6年生が5年生に説明していたが、今年度は、6年生がパンフレットを作成して5年生に渡した。小中一貫型教育の進捗状況に関する5年保護者・地域への説明会も、2月の授業参観の折に開催していたが今年度は説明会を行わず、説明会資料を保護者に配付した。
- 「小中連携だより」の発行

(2) 地域人材を生かした体験活動による、心豊かな児童の育成

【第1学年：「お正月の昔遊びと凧揚げ体験(生活科：4月・1月～2月)】

「お正月の昔遊び」(福笑い・コマ回し・お手玉・けん玉)などの遊びで共遊する活動を設定した。1年生を含めた現代の児童は、ゲーム中心の生活が多くなり、人と関わる遊びをすることが少なくなった。アナログ的な遊びに触れ、直接人と関わる遊びの面白さを感じることができた。また、1年生が凧作り挑戦し、できた凧をもって6年生が学ぶ中学校校舎へ出かけていって6年生と一緒に凧揚げをした。交流が制限された今年だが、1年生も6年生も共に喜び楽しむ姿が多くみられた。

【第2学年：サツマイモの栽培(生活科：5月～10月)：町探検(生活科：11月)】

学校の花壇でサツマイモのツル差しを行い、秋には芋を収穫した。自分たちの手で育てた芋を各自自宅へ持って帰り、家族とともに収穫の喜びを味わった。野菜等の栽培に関心をもつ子が増え、芋以外に育てた野菜へ、水やりを続ける児童の姿が見られた。また、地域の公民館や商業施設を見学し、そこで働く人たちの様子や施設の説明などを聞くなど、地域の様子を学ぶ体験活動をした。クラスごとに見学先を決め見学し、そこで所で学んだことを発表しあう交流会を設定し、学習を深め合った。

【第3学年：地域の史跡を調べよう(総合的な学習：11～2月)】

今年度は、コロナ禍のため例年実施していたお年寄りとの昔遊び交流は断念した。そこで、地域に目を向けた史跡等の調べ活動を行った。地域の歴史に詳しい方をGTとしてお招きし、地域に伝わる史跡や伝統行事について分かりやすく話をしていただき、自分たちの住む広田の町により愛着を感じることができ

た。その活動から、広田の歴史にも興味を広げ、住吉神社や古墳跡地、広田城跡などの地域の史跡を調べる活動につなげた。調べてまとめたことを、先輩の6年生に聞いてもらい、学習内容や発表の仕方などについてアドバイスをしてもらった。歴史学習を通して、6年生との楽しい交流ができた。

【第4学年：花の栽培活動（総合的な学習：10～3月）】

コロナ禍でなければ、ボランティア「花づくり協力隊」の協力を得て、卒業式・入学式へ向けた花の栽培活動に取り組む予定だったが、今年度は交流を断念した。それで、「卒業式や入学式を花で飾ろう」とのめあてを立て、プランターで花の苗を育てる活動をした。草取りや水やり活動を通して、植物を大切に育てようとする心が育った。また、人権の花で育てた「ひまわりの種」や育てた花の苗を、「花づくり協力隊」の方々や登下校時にお世話になっている「見守り隊」の方々に手紙を添えてプレゼントした。日頃お世話になっている地域の方々に感謝の気持ちを伝えることができた。

【第5学年：「命と食について考えよう」みかん栽培について（総合的な学習：6～2月）】

4hクラブ（佐世保市農業青年クラブ連絡協議会）、JAながさき西海、県北振興局の協力で、重尾にある4hクラブの会員さんの畑をお借りして、みかん栽培についての学習に取り組んだ。4hクラブの方から、みかん摘果について教えていただき、実際に摘果作業を体験した。さらに、みかんの生育状況を調べ、収穫も体験できた。これらの活動を通して、植物栽培の難しさや普段何気なく食べ、時には平気で残している食材が、たくさんの方々の努力によって作られていることと、命をいただいているということにあらためて気付くことができた。

【第6学年：「留学生と交流しよう」（総合的な学習：6～2月）】

6月に、長崎国際大学の留学生との交流学習を行った。本年度は、中国・香港・韓国等のアジアからの留学生とコロナ禍のためzoomを活用して交流し、それぞれの国の文化や遊びについて紹介していただいた。交流後には、この時に教えてもらったそれぞれの国の遊びを学級別に行った。これらの活動を通して、児童は外国の文化を体験的に理解し、異文化への興味・関心を高めるとともに、日本の文化についても改めて見直す機会となった。さらには、外国語学習への関心が高まった。

また、小中一貫型教育を生かし中学校教諭による「出前授業」を行い、華道を体験することができた。

【特別支援学級：芋ほり体験をしよう（自立活動・生活単元学習：11月）】

小学校校舎（知的・情緒学級）と中学校校舎（知的・情緒・病弱学級）の児童と中学校の特別支援学級の生徒が合同で芋ほり体験を行った。お互いに助け合って芋堀をしたり、掘り出した芋を見ながら喜んだりするなど、協力することの大切さや収穫の喜びを味わうことができた。

【全学年：読書活動の推進（通年）】

火曜朝の時間帯は「朝読書」の時間とし読書活動に取り組み、読み語りボランティアグループ「よむよむ」の協力を得て、学年毎に絵本の読み語りを行った。6年生校舎での活動も定着している。また、図書司書により、良書の選定や読書の奨励、図書館の環境整備等、児童の読書好きを増やすための取組を実施した。

（3）課題を明確にした学力向上の推進

- 学力調査に基づく課題の分析と改善に向けた取組を行う。

【全国学力学習状況調査（6学年）、県・市の学力テスト（5・4学年）、2・3学年も学力調査を実施】

それぞれの結果を分析し、基本的な学習内容の定着に向けた対策を立て、効果的な学習教材を整え、朝のチャレンジタイム（月・木曜日8：25～8：40）や家庭学習の課題として活用することができた。

- 校内研修において「進んで考え、表現し、主体的に学びを深め合う児童の育成～数学的な表現を用いた学習を通して～」を目指した授業研究の実践に取り組んだ。初任者をはじめとする若手教員が多く、意欲的に公開授業に取り組み授業研究会が活性化されている。学年主任を中心に、同学年間で話し合い、授業の中に以下の2点を盛り込み、授業研究を行った。

ア 毎時間の授業について「めあて」と「まとめ」を明確にした授業実践。

イ 自分の考えを数学的な表現（絵や図、表やグラフ等）を使って表す場の設定。

また、今年度は、中学校校舎で学ぶ6年生の研究授業及び反省会でリモートを使って行った。

(1) 小中一貫型教育の推進

① 中1ギャップの解消

6年生が中学校行事等に関わることが定着し、中学生及び中学校職員との日常的な交流が進んだ。小中一貫型教育4年目を迎え、一期生が中学校3年生となった。6年生も中学生も交流の良さや喜びを感じており、小中の教職員も連携して児童・生徒の理解や継続した見守りができている。

② 6年生の学習面における効果

中学校教職員の専門性を生かした授業（乗り入れ授業）が定着し、児童の学習意欲及び技能の向上と中学校へのつながりができている。【外国語・音楽・書写】また、「出前授業」という形で、児童のみならず、教師自身のスキルアップも図ることができた。さらに、時計を見て自発的に行動することや始業前の黙想で集中して学習を始める習慣、「自主学习ノート」の活用による家庭学習の習慣が定着した。

③ リーダー性の育成

6年生は、クラブ活動、1～5年との縦割り活動など小学校舎での活動も継続して取り組ませることでリーダー性を発揮させる場面を設定した。中学生と接する機会が増え、集団行動の仕方などを身に付け、全ての子どもたちがリーダーとしての在り方を学び、下級生の良い手本となっている。

5年生は、年度始めから小学校舎の最高学年として、1年生のお世話・運動会の準備等に取り組んだ。正門前で「あいさつ運動」、1年生のお世話や委員会活動での4年生への指導などに1年間を通して取り組み、小学校舎でのリーダーとしての自覚が育った。

(2) 地域人材を生かした体験活動による、心豊かな児童の育成

本年度は、新型コロナウイルス感性拡大防止の観点から、例年のような地域の「人材・もの」を生かした体験活動が制限され、各学年、可能な限りの範囲で企画・運営をした。1～3学年では、地域をテーマにした活動を計画し、地域の施設や史跡等を見学したり、調べたりする活動を通して、地域に愛着をもつことができた。4～6学年では、環境教育、食育、国際理解と、地域の環境や人材を生かして、テーマを絞った教育活動を展開することができた。4年生は花の苗植え活動を行い、5年生はみかん栽培の苦労や食への感謝を学び、6年生は国際大学との交流を通して異文化を理解することの必要性を学んだ。特別支援学級は、芋ほり体験活動を通して、異学年で協力することの大切さと収穫の喜びを味わうことができた。

図書ボランティア「よむよむ」の読み語りや図書司書による図書館整備により、書物への親しみをもち、図書室の貸し出し冊数も増え、高学年においても、文章量の多い書物を選ぶ児童が見られるようになった。

(3) 課題を明確にした学力向上の推進・新学習指導要領に即した授業実践

年度始めの学力テストは、2・3年生も実施することで、国語・算数において、各学年の課題、全校的な課題を把握することができた。また、課題改善のための反復学習にも取り組むことができた。本校の児童に、自分の考えを筋道立てて説明する力を付けるために、校内研修では思考の過程を絵・図、表やグラフなどで表す場面を授業の中に設定したことで、自分の考えを表現できる児童が増えてきた。

(4) 特別支援教育と防犯教育の環境整備

特別支援教育の教具等が揃ったことで、特別支援学級の授業に活用するだけでなく、配慮を要する児童の個別指導にも活用することができた。また、防犯カメラやさすまたの整備を整え、風雨災害や不審者侵入などの被害から身を守るための防犯教育をしたことで、児童の防犯に対する意識の高揚ができた。

5 今後の課題

① 小中一貫型教育のさらなる充実に向けて

- 6年と1～5年・の縦割り活動（小学校校舎）や交流活動（中学校校舎）の充実を図る。
- 指導方法や評価について、小中教職員間の研修を深める。（リモート研修も検討）
- 9か年を見通した、児童・生徒の基本的な学習習慣・生活習慣の確立を図る。
- 地域・保護者への継続した経過説明を実施する。

② 地域教材（人・もの）のさらなる効果的な活用に向けて

- 中学校や地域人材との連携を図り、9か年を通して「夢・憧れ・志」を抱かせる体験活動を計画する。

③ 学力向上に向けて

- 学力調査の結果を分析するとともに、課題を重点化し、課題克服に向けた系統立てた指導をする。
- 家庭と連携して、家庭学習の習慣化と質の向上を図る。